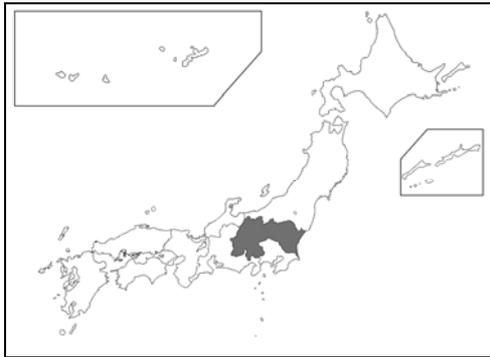


(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

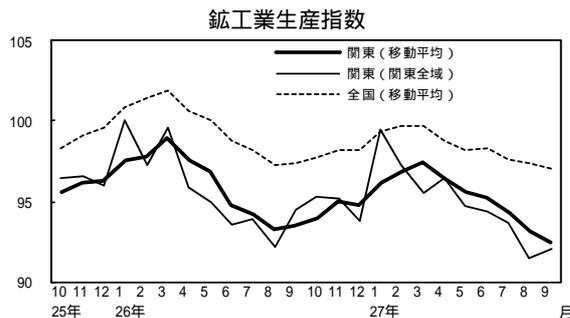
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 8 月)	今回 (平成 27 年 11 月)
景況判断	緩やかな回復基調が続いているが、一部に弱さ	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調
鉱工業生産	おおむね横ばい	弱含み
住宅建設	大幅に増加	増加

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は弱含んでいる。(関東全域)

輸送機械は国内向けを中心に減少。電気機械はセパレート型エアコン、非標準変圧器等を中心に減少。情報通信機械はデスクトップ型パソコン等を中心に減少。生産用機械は中国や北米向けのマシニングセンタや、ショベル系掘削機等を中心に減少。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4~6 月期	7~9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	18.6	7.2	3.5	1.4	4.2	0.6
化学	15.1	3.8	-	2.4	0.4	-
電気機械	9.3	1.4	3.4	1.6	2.2	4.7
情報通信機械	6.2	8.2	15.3	14.3	3.4	4.2
生産用機械	6.1	1.2	12.9	2.6	3.9	16.0
鉱工業	100.0	2.3	2.9	0.7	2.3	0.7

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

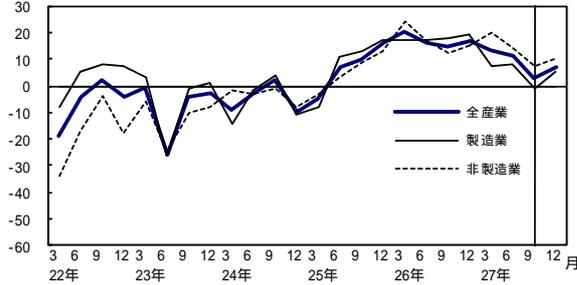
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 7~9月期、9月は速報値。化学は速報値では公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅が、それぞれ縮小している。

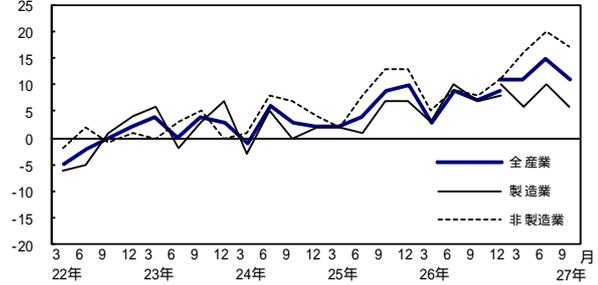
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



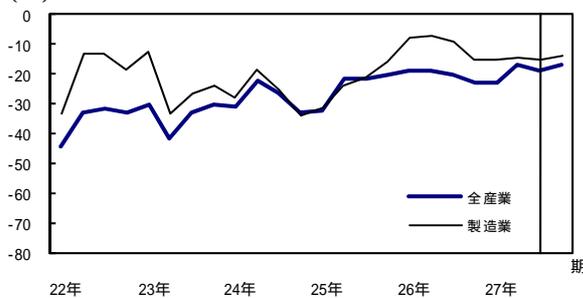
(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。27年12月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行前橋支店管内。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行前橋支店管内。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



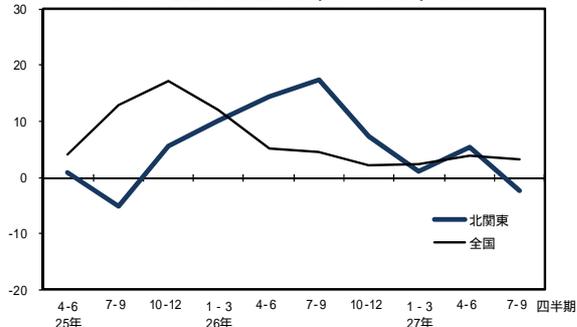
(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月) [企業動向関連 (現状)]

「中国経済減速の不透明感が増し、製造業では業況感が低下している (金融業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。

(%) 民間非居住用建設工事費 (前年同期比) の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比、%)

	26年度実績	27年度計画
全産業	7.5	0.1 (0.2)
製造業	21.2	4.8 (1.8)
非製造業	14.4	10.2 (5.7)

(備考) ()は前回 (6月) 調査比修正率。

日本銀行前橋支店管内。

(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比1.8%減、8月は同1.9%増、9月は同1.0%増となった。

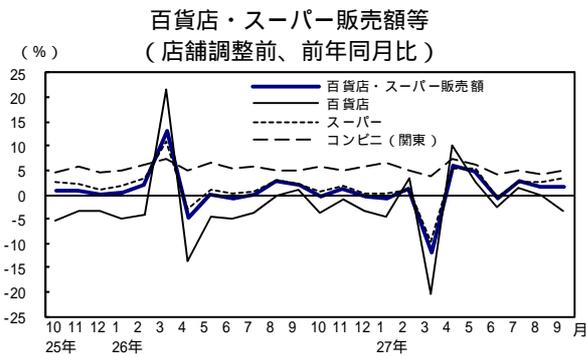
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、7月は「身の回り品」、「その他の商品」等の動きが良かったことから、前年を上回った。8月は「衣料品」、「飲食料品」等の動きが鈍かったことから、おおむね前年並みとなった。9月は「衣料品」、「身の回り品」等の動きが鈍かったことから、前年を下回った。スーパーは、「身の回り品」、「衣料品」等に動きがみられたことから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月) [家計動向関連 (現状)]

北関東地域の家計動向関連DIは、47.1となり前月より4.6ポイント上昇した。

「前年同期は前半2週の週末に台風の影響を受け、大きく売上を落としたが、今年は天候に左右されることなく、順調に売上が伸びている。ただし、3週目から売上は停滞気味であり、月全体でみると3か月前と変わらない(百貨店)」など「変わらない」とする回答が増加した。



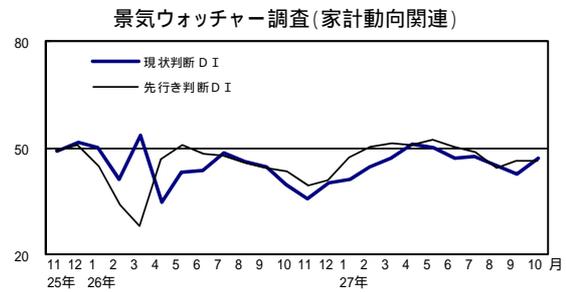
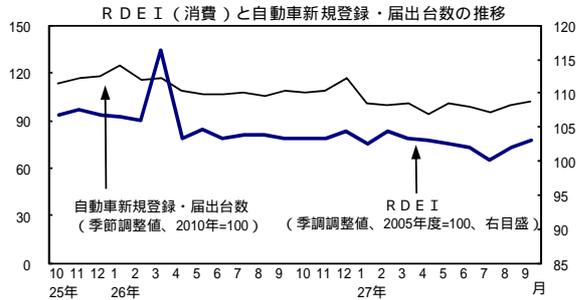
	27年7-9月	27年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.7	1.8	1.9	1.0
百貨店・スーパー(*2)	2.0	2.7	1.5	1.7
百貨店(*2)	0.7	1.2	0.1	3.3
スーパー(*2)	2.9	2.8	2.7	3.2
コンビニ(*2)	4.7	4.9	4.2	4.9
乗用車(*3)	8.2	12.2	5.2	6.4
(季節調整値)(*3)	0.7	4.5	5.2	2.3

(備考) 1. 季節調整済前期 (月) 比 (%)

2. 店舗調整前、前年同 (月) 期比 (新潟、静岡を含む)

コンビニは、関東全域

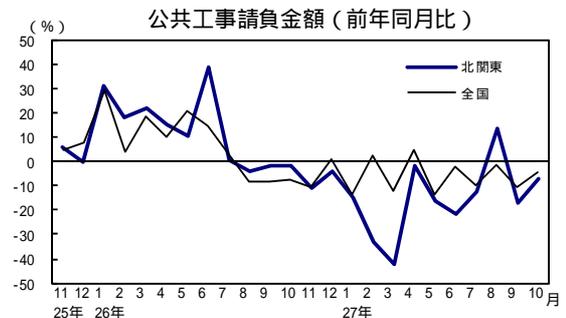
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期 (月比 (%)))



(2) 住宅建設は増加している。

分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は27年度累計でみると前年度を下回っている。

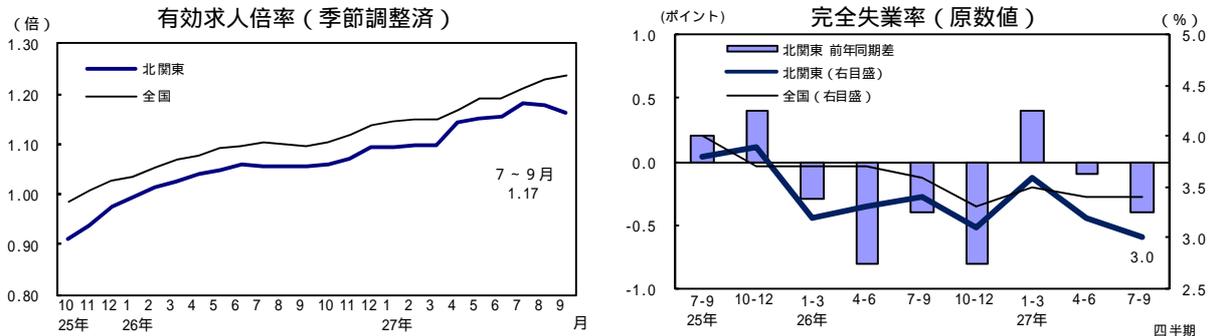


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

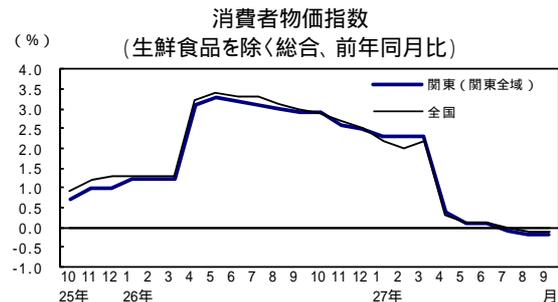
「求人进行引する製造業では、扱う製品により企業間格差が広がり、リストラを始めた大手企業の一部門、忙しく求人が増える自動車及び医療関連企業と、様々な様相を呈している (民間職業紹介機関)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年10-12月	27年1-3月	4-6月	7-9月	27年10月
倒産件数	141	146	116	130	45
(前年比)	4.4	29.2	0.9	15.6	11.8
負債総額	228	529	269	395	95
(前年比)	1.0	156.7	13.3	27.9	0.4



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・プレミアム付商品券効果なのか、高単価メニューの注文が多い (一般レストラン)

<先行き>

- ・冬のボーナス支給時期となり、購買意欲が高まると予想する。雪の多い地域のため、灯油価格が現状程度だと大分助かるのではないかと (スーパー)

